

03 エムポックス

BQ01 エムポックスに罹患する可能性があるのはどのような人か？

BQ02 エムポックスの診断法は？

BQ03 エムポックスの治療法は？

BQ04 エムポックスの予防法は？

エムポックスが日本ではじめて確認されたのは2022年7月のことである。2025年5月16日時点で252例が診断されている。日本語で書かれた総説としては次があげられる。詳しい情報はこれらのウェブサイトを参照して頂きたい。

①国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト エムポックス

(<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/a/mpox/010/index.html>)¹⁾

②厚生労働省 エムポックス

(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/monkeypox_00001.html)²⁾

③令和6年度新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業 エムポックスに関するハイリスク層への効果的な啓発及び診療・感染管理指針の改訂のための研究班 エムポックス 診療の手引き 第3.0版 (<https://www.mhlw.go.jp/content/001463222.pdf>)³⁾

1. 概要

エムポックス（旧称：サル痘）は、モンキーポックスウイルスによる感染症であり、おもに接触感染や飛沫感染によって伝播する。モンキーポックスウイルス（monkeypox virus：MPXV）はポックスウイルス科オルソポックスウイルス属に属する二本鎖DNAウイルスである。大きく分けて2つの遺伝子型（クレード）が存在する。日本ではほとんどが比較的軽症のクレード2であるが、現在コンゴ民主共和国（Democratic Republic of the Congo：DRC）を中心に致死率の高いクレード1が広がりつつあり大きな問題となっている。日本ではおもにヒト免疫不全ウイルス（human immunodeficiency virus：HIV）感染者の間で流行が広がっている。日本ではHIV感染者の多くは抗レトロウイルス療法を受けているが、未治療のHIV感染者では致死的になり得る感染症であ

る。有効な治療は現在のところない。天然痘ワクチンが予防に有効であるとされているが、供給は十分でないため接触感染対策を中心とした対策が重要である。

2. 疫学

エムポックス（サル痘とよばれていた）は1970年にコンゴ民主共和国ではじめて報告され、アフリカ中央部から西部にかけて流行していたが、流行地以外では、帰国者で散発的な発生が報告されているだけであった。

2022年5月以降、欧米を中心に男性間で性交渉を行う者（men who have sex with men：MSM）の間で感染が拡大した。日本では2022年7月に欧州で感染した者との接触歴がある帰国男性が初の症例として報告された。2025年5月16日時点で252例が報告されている。

2023年以降はDRCを中心としたアフリカ諸国でクレード1のエムポックスの流行が報告されている。

3. 臨床症状

5～21日（通常6～13日）の潜伏期間を経た後発熱、頭痛、リンパ節腫脹、筋肉痛で発症し、1～5日後に皮疹が顔面から出現し、体幹・四肢へ広がる。水痘同様水疱、膿疱、痂皮を経て2～4週間で治癒する。2022年の流行では水疱は肛門・直腸、肛門周囲の病変が多いと報告されている。

4. 診断

病原体診断は水疱内容物や痂皮などを検体として用いた遺伝子検査やウイルス分離による。採取にあたっては「病原体検出マニュアル エムポックスウイルス（第4版）」⁴⁾に従う。

5. 診断がついた場合に行うこと

エムポックスは感染症法における4類感染症であり、診断した医師は最寄りの保健所長を經由して都道府県知事に対して直ちに届出を行うことが義務づけられている。エムポックスを疑う症状がみられた場合の対応については、厚生労働省からの事務連絡⁵⁾に示されている。

6. 治療

治療は支持療法と疼痛管理が中心である。国内では製造販売承認が得られた抗ウイルス薬（テコビリマット）がある。現在は特定臨床研究の枠組みでの投与が可能である。

7. 予防

感染対策としては接触予防策と飛沫予防策が必要であり、手指衛生、リネン類の共用回避、サージカルマスクや眼の防護具を含む个人防护具（personal protective equipment：PPE）の着用が重要である。患者の状態や処置に応じて個室隔離や空気感染予防策も検討される。

ワクチンは痘そうワクチンがエムポックス予防にも有効である。

BQ01 エムポックスに罹患する可能性があるのはどのような人か？

わが国では性交渉(特に男性間の性的接触)による場合が多いが、アフリカでは感染者と家庭内、医療・介護の場で接触のある人や動物と接触する機会の多い人も罹患する可能性がある。

エビデンスレベル:3 推奨グレード:B

要約

- ・エムポックスはおもに接触感染、時に飛沫感染によって伝播する、
- ・家庭内などで感染者との密接な接触がある人、医療従事者などが感染のハイリスク集団である、
- ・動物との接触が多い人もハイリスク者である。

解説

エムポックスはモンキーポックスウイルスによる感染症であり、おもに接触感染、時に飛沫感染によって伝播する。感染リスクが高いとされるのは以下のような人である。

- 感染者との密接な接触がある人、医療従事者：皮膚病変や体液に触れることで感染するため、患者の看護・介護をする人は注意が必要である。
- 性的接触をもつ人：特に MSM による感染が報告されている。
- 感染地域への渡航者：アフリカの一部地域ではエムポックスが常在しており、流行地に滞在する場合は家庭内での接触、体液で汚染された器具などによる感染に注意が必要である。
- 動物との接触が多い人：げっ歯類がウイルスを保有していると考えられており、感染動物との接触によって感染することがある。

BQ02 エムポックスの診断法は？

臨床症状からエムポックスを疑った場合、水疱内容液、痂皮などを検体として用いた遺伝子検査を行う。採取にあたってはウイルスへの曝露に注意が必要である。

エビデンスレベル:3 推奨グレード:A

要約

- ・皮膚病変の内容液、組織からウイルス遺伝子をポリメラーゼ連鎖反応 (polymerase chain reaction : PCR) で検出する。
- ・検体採取にあたっては「病原体検出マニュアル エムポックスウイルス (第4版)」を参考にしてウイルスへの曝露を避けるように十分な注意を払う。

解説

エムポックスの診断は、おもに水疱や膿疱の内容液、痂皮、または組織を採取し、ウイルス遺伝子

を PCR で検出することで行う。時にウイルス分離、電子顕微鏡検査、蛍光抗体法（ウイルス抗原を検出）が用いられる。エムポックスでは手掌や足底にも皮疹が出現することが水痘との鑑別に役立つとされている。

BQ03 エムポックスの治療法は？

エムポックスの治療は対症療法が中心である。抗ウイルス薬を用いた臨床試験が現在進行中である。

エビデンスレベル:4 推奨グレード:C1

要約

- ・エムポックスの治療として確立されているものはない。
- ・重症例にはテコビリマット（tecovirimat）などの抗ウイルス薬が使用されることがある。

解説

エムポックスの治療として確立されているものではなく、現在は対症療法（解熱鎮痛薬、皮膚病変の保清など）が中心である。重症例にはテコビリマット（tecovirimat）などの抗ウイルス薬が使用されることがある。日本ではテコビリマット（tecovirimat）を用いた特定臨床研究が進められている。

BQ04 エムポックスの予防法は？

感染ハイリスク者との接触に関しては、接触感染対策、飛沫感染対策をしっかりと遵守することである。天然痘ワクチンは高い予防効果をもつため、ハイリスク者への使用が考慮される。

エビデンスレベル:3 推奨グレード:B

要約

- ・天然痘ワクチンは有効と考えられるが、わが国では特定臨床研究でのみ使用が可能である。
- ・接触感染対策、飛沫感染対策をしっかりと守ることが原則である。

解説

エムポックスの原因であるモンキーポックスウイルスは、おもに接触感染、時に飛沫感染で伝播する。したがって対策としては、接触予防策と飛沫予防策が必要であり、手指衛生、リネン類の共用を避けること、サージカルマスクやゴーグルを含む PPE の着用が重要である。男性間性的接触をする人に対しては水疱・膿疱の中には感染力をもつウイルスが存在することを伝えることが大切である。

日本で開発された痘そうワクチン（一般名：乾燥細胞培養痘そうワクチン）は、LC16m8 株由来の弱毒化生ワクチン（LC16 ワクチン）であり、天然痘に対する予防ワクチンとして承認されているが、エムポックスの予防にも有効であるとされ、特定臨床研究が行われ、十分な免疫応答が認められた。抗レトロウイルス療法を受けている人では安全に投与できることも証明された。

文献

- 1) 国立健康危機管理研究機構感染症情報提供サイト：エムポックス. 2025.
<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/a/mpox/010/index.html>（アクセス日：2025年5月25日）（総説）
- 2) 厚生労働省：エムポックス. 2025. https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/monkeypox_00001.html（アクセス日：2025年5月25日）（総説）
- 3) 令和6年度新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業エムポックスに関するハイリスク層への効果的な啓発及び診療・感染管理指針の改訂のための研究班：エムポックス 診療の手引き 第3.0版. 2025.
<https://www.mhlw.go.jp/content/001463222.pdf>（アクセス日：2025年5月25日）（GL）
- 4) 国立感染症研究所：病原体検出マニュアル エムポックスウイルス（第4版）. 2023.
<https://id-info.jihs.go.jp/relevant/manual/010/mpox20230531.pdf>（アクセス日：2025年5月25日）（GL）
- 5) 令和4年5月20日付厚生労働省健康局結核感染症課事務連絡。サル痘に関する情報提供及び協力依頼について。令和6年8月16日最終改正. <https://www.mhlw.go.jp/content/001184502.pdf>（アクセス日：2025年5月25日）（総説）